

2023(令和5)年1月7日(土)―22日(日)

出品作品をおよその展示順に掲載しています。

作者名、作品名、制作年、技法・材質、寸法(縦×横×奥行 cm)を記載しています。

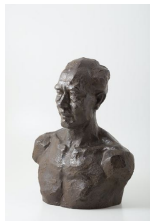
名前の後に☆がついているのは和歌山ゆかりの作家です。

ご注意をお願いします

- ・展示室では鉛筆を使用してください。
- ・作品にさわらないよう壁から離れてご鑑賞ください。
- ・写真撮影は可能ですが、あなたが撮影されたものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。著作権者の権利を侵害しないよう注意してください。フラッシュ、三脚、自撮り棒は使用しないでください。また、他の来館者の鑑賞を妨げないようご配慮ください。

1 保田 春彦

YASUDA Haruhiko／1930-2018☆



ちち ぞう

父の像

Father

1951(昭和26)/2013(平成25) 鋳造

ブロンズ 65.0×53.0×28.0cm

現在の紀の川市粉河に生まれる。父は保田龍門。この作品は1951(昭和26)年、龍門の還暦を記念して制作したもの。春彦は翌年、東京美術学校彫刻科を卒業しフランスに渡る。パリでザッキンに師事し、その後もローマで制作を続ける。1968年に帰国。ヨーロッパ滞在中に訪れた古い町や遺跡での記憶や体験を抽象的な形に結実させた作品の制作を続けた。

2 保田 龍門

YASUDA Ryumon／1891-1965☆



じが ぞう

自画像

Self-portrait

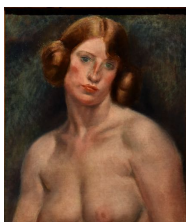
1915(大正4)

油彩、キャンバス 60.9×50.2cm

現在の紀の川市粉河に生まれる。1912(大正元)年に東京美術学校西洋画科に入学。この作品は在学中の24歳の自画像。手に持つ若い芽はデューラーの自画像を思い起こさせるもの。アーチ状の画面など、直接の交流はないものの岸田劉生が当時傾倒していた北方ヨーロッパの古典的な絵画への関心を共通して抱いていたことがうかがわれる。

3 保田 龍門

YASUDA Ryumon／1891-1965☆



ぞう

アンドレ像

Ms. Andre

1921(大正10)

油彩、キャンバス 54.7×45.8cm

1917(大正6)年に東京美術学校を卒業した龍門は、1921(大正10)年からフランスでブールデルのもとで本格的に彫刻を学ぶ。アンドレはこの時期のモデルの一人だったらしく、2年後には南仏旅行に合流し、マルセユでチフスにかかった龍門を看病したという。

4 保田 龍門

YASUDA Ryumon／1891-1965☆



くび

アンドレの首

Head of Ms. Andre

1922(大正11)

ブロンズ 20.3×20.0×20.0cm

和歌山県立美術館友の会寄贈

5 保田 龍門

YASUDA Ryumon／1891-1965☆



しょうじょ

少女

A Girl

1925(大正14)

ブロンズ 184.9×67.0×51.0cm

1923(大正12)年、帰国した龍門が翌年から制作し、1925(大正14)年の第12回院展に出品した作品。杏仁形の目や古式の微笑をたたえた口元の表情、全体の造形からは、古代ギリシアのアルカイック美術への関心がうかがわれる。この後、龍門は東京から和歌山に戻り、次いで大阪に移って制作を続けた。

6 神中 糸子

JINNAKA Itoko／1860-1943☆



かいがんふうけい

海岸風景

A Seashore

1888-92(明治21-25)

油彩、キャンバス 38.0×80.4cm

神中茂次氏寄贈

現在の和歌山市に生まれる。父は紀州藩洋学心得兼築城術教鞭方、母は紀州藩御用絵師の娘。1899(明治10)年に、日本で最初の国立美術学校であった工部美術学校に入学しフォンタネージ、のち小山正太郎に師事する。小山もこの作品と同じ構図のスケッチを残しており、写生旅行に出かけたことが考えられる。

7 石垣 栄太郎  
ISHIGAKI Eitaro／1893-1958☆



まち  
街  
Street  
1925(大正14)  
油彩、キャンバス 126.0×91.0cm

太地町に生まれる。1909年、先に移民していた父に呼ばれてアメリカに渡る。芸術を志してアート・スチューデント・リーグなどで学び、画家としての歩みを始めた。この作品では、第一次世界大戦後、繁栄するニューヨークの雑踏に社会格差の現実をとらえ、巧みな構図で描き出している。

10 高井 貞二  
TAKAI Teiji／1911-1986☆



けむり  
煙  
Smoke  
1933(昭和8)  
油彩、キャンバス 91.1×117.0cm  
高井志づ氏寄贈

大阪に生まれ、高野口町で育つ。現在の橋本市立高野口小学校、旧制伊都中学校に学び、在学中から画家を志望し、大阪の信濃橋洋画研究所に学ぶ。19歳のとき東京に移り、小説の挿絵を描く一方、二科会に出品。東郷青児や中川紀元らと知り合い、前衛的な表現を試みて、二科九室会の一員となる。この作品では近代的な建築の煙突から流れる煙の中に人や街の姿を描き出している。

8 原 勝四郎  
HARA Katsushiro／1886-1964☆



がこうぞう  
画工像  
Portrait of a Painter  
1932(昭和7)  
油彩、厚紙 65.0×52.6cm

現在の田辺市に生まれる。東京美術学校、東京音楽学校を中退。1917(大正6)年から1921(大正10)年までヨーロッパを放浪。帰国後は終生白浜に住んで制作を行った。1927(昭和2)年南紀美術会に参加。終生郷里田辺で制作を続け、二科展・二紀会に出品した。太い筆致で大胆に自分自身の相貌をとらえ、原の特徴的な表現が見られる。

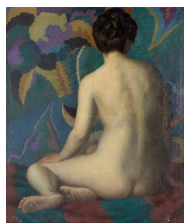
11 川口 軌外  
KAWAGUCHI Kigai／1892-1966☆



しょうじょ かいがら  
少女と貝殻  
A Girl and Seashells  
1934(昭和9)  
油彩、キャンバス 167.3×267.2cm

現在の有田川町に生まれる。1919(大正8)年にフランスに渡り、キュビズムやシュルレアリスムなどの新しい様式を積極的に吸収。帰国後は独立美術協会の結成に加わり、独自の作風を展開した。この作品ではギリシア神話の美の女神アフロディテ(ローマ神話のヴィーナス)誕生の物語にもとづき、新しい時代の表現を試みている。

9 浜地 清松  
HAMAJI Seimatsu／1885-1947☆



らふ  
裸婦  
Nude  
制作年不明  
油彩、キャンバス 98.8×80.5cm

現在の串本町津荷に生まれる。1901(明治34)年アメリカに渡り、ボストン美術学校を卒業。1920(大正9)年に帰国して郷里に新宮洋画研究所を開く。1925(大正14)年、再びアメリカに渡り、翌年フランスに移って伝統的な描写を学ぶ。1927(昭和2)年に帰国し、この作品にも見られるフランスのアカデミズムにもとづく作品で評価を得た。

12 建畠 大夢  
TATEHATA Taimu／1880-1942☆



かん おんな  
感に打たれた女  
Woman Deeply Moved  
1932(昭和7)／铸造年不詳(生前铸造)  
ブロンズ 161.0×40.0×44.0cm

1932(昭和7)年、第13回帝国美術展覧会(帝展)の出品作。何かに感じ入った瞬間の女性の動きを全身裸像で表現している。大夢はフランスのロダンに代表される19世紀彫刻の造形手法を学び、彫刻の日本のアカデミズムを築く役割を担った一人。長男の寛造も彫刻の道に進み、独自の抽象表現を追求した。

## 13 建畠 大夢

TATEHATA Taimu／1880-1942☆



## おゆのつかれ

Tired after a Bath

1913(大正2)／1970(昭和45)铸造

ブロンズ 68.0×40.0×56.0cm

現在の有田川町境川に生まれる。京都市立美術工芸学校、次いで東京美術学校彫刻科に学び、1911(明治35)年に卒業。東京美術学校在学中から文展へ出品をはじめて受賞を重ね、1919(大正8)年より審査員をつとめ翌年には東京美術学校教授となった。近代日本彫刻を築き上げた彫刻家の一人。湯あたりしたこどもの一瞬の表情をとらえたこの作品は、第7回文展に出品された。

## 14 村井 正誠

MURAI Masanari／1905-1999☆



う る ば ん

## URBAIN No.1

1936(昭和11)

油彩、キャンバス 112.2×194.2cm

岐阜県に生まれる。新宮市で育ち、西村伊作が創立した文化学院に学ぶ。1928(昭和3)年から4年間ヨーロッパに学び、モンドリアンらの表現に影響を受ける。帰国後は二科会、独立美術協会などに出品するが、新時代洋画展、さらに自由美術家協会の創立に参加。URBAINはフランス語で都市を意味し、当時報道された内モンゴルの城郭都市の航空写真を下敷きにしている。

## 15 野長瀬 晩花

NONAGASE Banka／1889-1964☆

な ら  
奈良

Nara

1917(大正6)頃

顔料、絹 43.4×56.4cm

田中明里子氏寄贈

現在の田辺市中辺路町近露に生まれる。1911(明治44)年、京都市立絵画専門学校を中退。村上華岳、土田麦僊、榊原紫峰や当時京都にいた竹久夢二とも交流する。1918(大正7)年、麦僊、紫峰、華岳、小野竹喬と国画創作協会を設立。1921(大正8)年、ヨーロッパ各地を訪ね翌年帰国。1928(昭和3)年、国画創作協会第一部(日本画)の解散後は画壇に距離を置いた。

## 16 日高 昌克

HIDAKA Shokoku／1881-1961☆



せいぶつ

## 静物

Still Life

1926(大正15)

顔料、絹 34.4×41.8cm

瀧北敬久氏寄贈

現在の御坊市に生まれる。1905(明治38)年、京都府立医学専門学校を卒業し、耳鼻科医となる。1914(大正3)年から、阪井芳泉に日本画を学び、徐々に発表を始める。1938(昭和13)年、病院を長男に譲って画業に専念。後に淡彩を施した水墨画で独自の境地を開くが、この作品では干柿を直截に描写している。

## 17 シーガル, ジョージ

SEGAL, George／1924-2000



れんが かべ ある おとこ

## 煉瓦の壁ぞいに歩く男

Man Walking along Brick Wall

1988(昭和63)

石膏、木、アクリル絵具他

264.6×359.9×270.4cm

ニューヨークに生まれる。ニューヨーク大学で学び、画家として活動をはめるが、1958年から立体を手がける。モデルから直接石膏で型を取り、石膏のまま生活の一場面を再現した作品で評価される。1980年代には実際に近い彩色を施し、立体でありながら絵画的でもある作品を試みた。ニュージャージー州の自宅で逝去。

## 18 ノグチ, イサム

NOGUCHI, Isamu／1904-1988



## ヴォイド

Void

1971(昭和46)/1979(昭和54)铸造

ブロンズ 116.0×86.0×66.0cm

ロサンゼルスで詩人の野口米次郎と作家のレオニー・ギルモアの間に生まれる。日米で学び、彫刻を志す。1925(大正14)年にはブランクーシに師事。1950(昭和25)年から日本で活動するが、1961(昭和36)年からはアメリカを本拠地として国際的に活躍した。ヴォイド(Void)は「無」や「空」の意味。

## 19 ジャッド, ドナルド

JUDD, Donald／1928-1994



むだ い

## 無題

Untitled

1988(昭和63)

アルミニウム 30.0×210.4×30.0cm

アメリカ、カンザスシティ近郊で生まれる。コロンビア大学で哲学と美術史の学位を取得する一方で作品制作を続け、抽象表現主義の影響を受けた絵画から、単純な形態の立体的作品を制作するに至る。1965(昭和40)年の論文で「スペシフィック・オブジェクト(明確な物体)」という概念を提唱。ミニマル・アートと呼ばれる傾向を代表する作家として活動した。

20 ロスコ, マーク  
ROTHKO, Mark／1903-1970



あか うえ おうかつしよく ころ  
赤の上の黄褐色と黒  
Tan and Black on Red  
1957(昭和32)  
油彩、キャンバス 176.2×136.6cm

現在のラトヴィアに生まれる。ユダヤ人への迫害を逃れて1913(大正2)年アメリカに移住。イエール大学に入学するが中退。ニューヨークで徐々に芸術家としてのキャリアを積み、1940年代末から輪郭の曖昧ないくつかの長方形が空間を占める作風を確立。ジャクソン・ポロックらとともに、抽象表現主義を代表する作家の一人と評価されている。

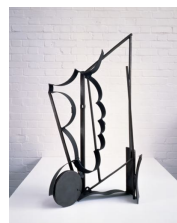
21 ニーヴェルソン, ルイーズ  
Louise NEVELSON／1899-1988



そら  
空のザグ II  
Sky Zag II  
1974(昭和49)  
木 95.0×136.0×22.0cm

現在のウクライナ、キーウに生まれ、1905(明治38)年、アメリカに移住。早くから芸術家を志し、ハンス・ホフマンに学ぶ。1950年代の半ばから、木切れや既成の家具の部品を箱状に詰め込み、組み上げて一色に塗った作品で、アメリカを代表する彫刻家の一人という評価を得た。

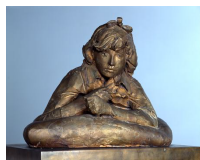
22 カロ, アンソニー  
CARO, Anthony／1924-2013



カタロニアのふぶき  
(カタロニア・シリーズ)  
Catalan Flurry (Catalan Series)  
1987-88(昭和62-63)  
鉄 104.5×60.0×72.0cm

イギリス、ロンドン近郊に生まれる。ロイヤル・アカデミーで彫刻を学び、ヘンリー・ムーアの助手を務める。1959(昭和34)年、アメリカでケネス・ノーランドやデヴィッド・スミスの影響を受け、鉄材を溶接、切断して彩色を施した作品で、彫刻の抽象表現主義と評価された。

23 マンズー, ジャコモ  
MANZÙ, Giacomo／1908-1991



どう  
ジュリア像  
Bust of Giulia  
制作年不詳  
ブロンズ 60.0×70.0×64.0cm  
玉井一郎氏寄贈

イタリアのベルガモに生まれる。いくつかの職人の徒弟として働き、短期間アカデミーにも学ぶが、ほぼ独学で彫刻の制作を始め、現代イタリアを代表する彫刻家の一人となる。モデルとなっているのは娘のジュリアで、息子ミレトとともにしばしば彼の作品に登場している。

24 アルマン  
ARMAN／1928-2005



きいろ  
黄色のチューブ  
Yellow Tubes  
1960(昭和35)  
アクリル絵具、チューブ、合成樹脂  
44.7×25.0×6.0cm

南フランスのニースに生まれる。ニースの国立美術学校を退学。イヴ・クラインらと交友し、1950年代末から壊れたバイオリンやゴミなど、同じ素材を大量に集めた集積(アキュミュレーション)の手法で注目を集める。この作品でもチューブから絞り出した絵具を並べてアクリルで固めている。1960年には「ヌーヴォー・レアリスト」グループに参加した。

25 柳原 義達  
YANAGIHARA Yoshitatsu／1910-2004



どうひょう・はと  
道標・鳩  
Milestone, Pigeon  
1973(昭和48)  
ブロンズ 41.0×52.0×28.0cm

神戸市に生まれる。1936(昭和11)年、東京美術学校彫刻科を卒業。在学中から帝展、国展会展に出品して評価を得るが、1946(昭和21)年、火災のため戦前の作品を焼失。1953(昭和28)年、フランスに渡り1957(昭和32)年に帰国。1965(昭和40)年から制作が始まった鳩や鳥を主題とする作品は、自らの歩みを示す道標であり一種の自画像として、晩年まで繰り返し制作された。

26 柳原 義達  
YANAGIHARA Yoshitatsu／1910-2004



どうひょう・からす  
道標・鴉  
Milestone, Crow  
1978(昭和53)  
ブロンズ 57.0×66.0×27.5cm



## 27 建畠 覚造

TATEHATA Kakuzo／1919-2006☆



かく

核

Nucleus

1956(昭和31)

セメント、鉄 63.0×53.0×43.0cm

作者寄贈

建畠大夢の長男として東京に生まれる。1941(昭和16)年、東京美術学校を卒業。1950年代から抽象的な彫刻を試み、独自の造形を展開した。この作品では、セメントと鉄というそれまでには用いられることの少なかった素材を組み合わせ、かたちを通してものの構造を示そうと試みている。

## 30 保田 春彦

YASUDA Haruhiko／1930-2018☆



しゃめん

ふうけい に だい

斜面のある風景 二題

Landscapes with Slopes

1973(昭和48)

ステンレススチール 115.8×50.0×60.3cm

保田龍門を父に、現在の紀の川市粉河に生まれる。1958(昭和33)年から10年にわたってフランスやイタリアに滞在し、彫刻を学ぶ。帰国後は金属を素材とし、都市や建築の形態を抽象的な彫刻として表現。この作品では、ステンレススチールが周囲の環境を反映しながら幾何学的なかたちとして自立している。

## 28 木村 賢太郎

KIMURA Kentaro／1928-



はなし

話

Talking Figure

1964(昭和39)

石 74.8×46.0×43.9cm

藤田慎一郎氏寄贈

東京に生まれる。1952(昭和27)年、東京美術学校工芸科を卒業。1955(昭和30)年、第5回モダンアート展で新人賞を受賞。石を素材として、抽象的でありながら生き物の動きを感じさせる造形で、独自の表現を切り開いた。

## 31 清水 九兵衛

KIYOMIZU Kyubei／1922-2006



ういづく

WIG 7

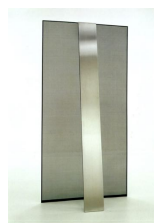
1980(昭和55)

アルミニウム 97.5×18.5×12.2cm

愛知県に生まれる。東京藝術大学工芸科卒。在学中、京都の清水焼の名家、清水六兵衛の養嗣子となり作陶を開始。1966(昭和41)年から抽象彫刻に取り組み、アルミニウムを主な素材に屋外彫刻も数多く手がけた。WIGはかつらのこと。何かかぶるもののようなかたちに見えるだろうか。

## 32 森口 宏一

MORIGUCHI Hirokazu／1930-2011



さくひん

作品

Work

1981(昭和56)

ステンレススチール、スチール、スチールネット、メラミン樹脂焼付塗装

240.0×120.0×50.0cm

大阪市に生まれる。関西大学経済学部を卒業。在学中に絵画を学び、1954(昭和29)年より行動美術展に出品。1962(昭和37)年、グループ「テムボ」を結成(翌年解散)。絵画から立体的な作品に移り、工業的な素材を用いた理知的と評される作風で認められた。

## 29 今村 輝久

IMAMURA Teruhisa／1918-2004



ふざい なか

不在の中のかたち33

Form in the Absence 33

1978(昭和53)

亜鉛 15.0×40.0×40.0cm

今村悦美氏・今村源氏寄贈

大阪市に生まれる。1942(昭和17)年、東京美術学校彫刻科を卒業。建畠覚造らと行動美術展で発表。金属を素材とする抽象的な彫刻の表現を追求した。

## 33 山口 牧生

YAMAGUCHI Makio／1927-2001



かたむくかたち A

Leaning Form A

1984(昭和59)

黒御影石、ベンガラ 177.0×75.5×50.5cm

現在の北九州市に生まれる。1940(昭和15)年、西宮市に移り、1950(昭和25)年、京都大学文学部哲学科を卒業。大阪市立美術研究所で彫刻を学び、保田春彦、福岡道雄と知り合う。黒御影石を彫りくぼめてベンガラを塗り込んだ独自の造形で評価を得た。

34 福岡 道雄  
FUKUOKA Michio/1936-



いし  
石をおとす(2)  
Dropping Stones (2)  
1977(昭和52)  
黒色強化ポリエステル 97.0×46.0×60.5cm

堺市に生まれる。1955(昭和30)年から大阪市立美術研究所で今村輝久、保田龍門に学び、山口牧生らと知り合う。プラスチックを用いた抽象的な作品から、身近な風景や、自身の姿を移した像を試みるが、その作品にはあらゆるものに対する懐疑が通底している。2005(平成17)年からは「つくらない彫刻家」を続けている。

35 宮崎 豊治  
MIYAZAKI Toyoharu/1946-



しんぺん るいじか  
身辺モデルー類似化ー  
Model for Personal Circumstances  
-Equivalence-  
1985(昭和60)  
鉄、漆 150.0×54.0×45.0cm

金沢市に生まれる。釜師十三代宮崎寒雉の次男。1968(昭和43)年、金沢美術工芸大学彫刻科を卒業後、神戸に移り、関西を拠点に制作。鉄と漆を用いながら、身近な生活環境から引き出された独自の造形で表現している。

36 川島 慶樹  
KAWASHIMA Keiju/1962-



さんしき  
三色  
Three Colors  
1989(平成元)  
木、鉄、顔料、アクリル絵具  
210.0×260.0×50.0cm

大阪市に生まれる。1984(昭和59)年、大阪芸術大学美術学科彫塑を卒業。同年、ギャラリー白(大阪)で初個展。木、金属、石等の異なる素材が壁の上で生き物のように組み合わせられた作品で注目を集める。

37 中西 學  
NAKANISHI Manabu/1959-



さんだー  
THUNDER  
1988(昭和63)  
発泡スチロール、アクリル樹脂他  
138.0×181.0cm  
南口友厚氏寄贈

大阪府に生まれる。1982(昭和57)年、大阪芸術大学美術学科絵画専攻を卒業。翌年、番画廊(大阪)で初個展。発泡スチロールで彫刻し、荒々しい彩色と樹脂による光沢ある表面を持つ作品で注目を集める。

38 館 勝生  
TACHI Katsuo/1964-2009



せぶてんばー  
September. 1. 2008  
2008(平成20)  
油彩、キャンバス 130.3×194.0cm

三重県桑名市に生まれる。1987(昭和62)年、大阪芸術大学芸術学部美術学科を卒業。在学中の1985(昭和60)年、ギャラリー白(大阪)で初個展。身体の動き感じさせる大きな筆跡による画面から、この作品見られるように、素手で絵具の塊を画面に叩きつけることによる造形を追求した。

39 中川 佳宣  
NAKAGAWA Yoshinobu/1964-



かじつ  
果実あつめ I  
Gathering Fruits I  
1989(平成元)  
アクリル絵具、再生紙 94.5×180.0×15.0cm

大阪府に生まれる。1987(昭和62)年、大阪芸術大学芸術学部美術学科を卒業。同年、番画廊(大阪)で初個展。絵画的でありながら立体でもある作品を試みる。この作品でも再生紙でかたどられたいちじくの果実が画面に置かれ、抽象的な作品と具体的なものが併存している。

40 山崎 亨  
YAMASAKI Toru/1960-



きたく うつわ  
帰宅の器  
Vessel of Getting Home  
1992-94(平成4-6)  
ポリエステル樹脂、油彩  
88.0×101.0×75.0cm  
個人蔵

大阪府に生まれる。1982(昭和57)年、大阪芸術大学芸術学部美術学科を卒業。鞆画廊(大阪)での初個展以後、個展を中心に作品を発表。伝統的な絵画のかたちが、絵具を混ぜたポリエステルによる抽象的な形態へと展開。1990(平成2)年、森村泰昌、近藤滋とともに《彫刻コスチューム》を制作。この作品は帰宅した自分自身を受けとめてくれる彫刻として構想された。

41 小泉 雅代  
KOIZUMI Masayo／1959-



かがみもち ぴんく  
**KAGAMIMOCHI〈PINK〉**  
2002(平成14)  
石粘土、カシュー、アクリル絵具他  
24.0×36.0×36.0cm  
田中恒子氏寄贈

青森県に生まれる。1981(昭和56)年、大阪芸術大学美術学科卒業。発表活動を始め、雛人形や出産、あるいは眉といった女性の生活と生理に関わる主題を作品化している。この作品は乳ガンとなった自身の体験から生まれたもの。

42 小泉 雅代  
KOIZUMI Masayo／1959-



かがみもち ぶらっく  
**KAGAMIMOCHI〈BLACK〉**  
2002(平成14)  
石粘土、カシュー、アクリル絵具他  
21.0×25.0×25.0cm  
田中恒子氏寄贈

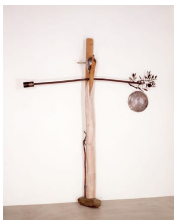
43 安藤 榮作  
ANDO Eisaku／1961-



ある ふじさん  
**歩く富士山**  
Walking Mt. Fuji  
2015(平成27)  
木 23.5×15.0×14.0cm  
田中恒子氏寄贈

東京都に生まれる。1986(昭和61)年、東京芸術大学彫刻科卒業。1989(平成元)年から福島県いわき市を拠点に制作を行うが、2011(平成23)年、東日本大震災で被災し奈良県天理市に移住。丸太を手斧一本で叩く手法で制作を続けている。

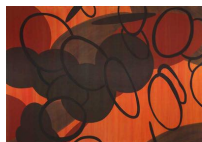
44 北辻 良央  
KITATSUJI Yoshihisa／1948-



いの ひと  
**オリーブ・祈る人**  
Olive, a Prayer  
1989(平成元)  
鉄、木、石、銅、ステンレススチール  
245.0×202.0×52.0cm

大阪府に生まれる。1972(昭和47)年、多摩美術大学デザイン科卒業。1968(昭和43)年から作品発表を始め、「もの派」の動向を担う作家の一人として評価される。作品の背後に物語を想像させる造形の追求を続けている。

45 湯川 雅紀  
YUKAWA Masaki／1966-☆



ふくみ  
**福耳**  
Plump Ears  
2011(平成23)  
油彩、キャンバス 182.0×259.0×4.5cm

海南市に生まれる。和歌山大学教育学部、大阪教育大学大学院美術教育研究科に続き、1996(平成8)年、ドイツ国立デュッセルドルフ芸術大学芸術学科を修了。ミミズの内部構造に興味を持ち、らせん状の針金に丸い板をとりつけたモデルに基づく画面を構成している。

46 小河 朋司  
OGAWA Tomoji／1966-☆



からー ていんと れつど あんど ぶるー  
**COLOR TINT -RED AND BLUE-**  
1996(平成8)  
木、アクリル絵具、ミックスホワイト  
240.0×25.0×20.0cm  
作者寄贈

新宮市に生まれる。1994(平成6)年、多摩美術大学大学院美術研究科修士課程修了。直接見えない画面の色彩が反射して生まれる光としての色を表現する。この作品では内側に赤から青へと色彩が徐々にうつりかわる。

47 戸谷 成雄  
TOYA Shigeo／1947-



つる もり  
**吊された森**  
Hung Forest  
1995(平成7)  
木、灰、鉄、アクリル 140.0×35.0×25.0cm  
田中恒子氏寄贈

長野県に生まれる。1975(昭和50)年、愛知県立芸術大学大学院彫刻専攻修了。木材にチェーンソーで刻み目を入れていく手法で破壊と生成を同時に表現した作品を試みている。

## 48 秋山 陽 AKIYAMA You／1953ー



め た づおいど  
**META-VOID**

2004(平成16)

陶 130.0×125.0×136.0cm  
寄贈

山口県に生まれる。京都市立芸術大学で八木一夫に学び、1978(昭和53)年、陶磁器専攻科修了。土をバーナーで焼くことで生じる亀裂を作品として成立させることに取り組む。京都市立芸術大学教授として後進の育成にも携わった。題名は空虚についての空虚とでも言えようか。

## 49 ステラ, フランク STELLA, Frank／1936-



ラツカ III  
**Raqqqa III**

1968(昭和43)

アクリル絵具、キャンバス 304.0×760.0cm

アメリカ、ボストン近郊に生まれる。プリンストン大学で美術史を学ぶ。作品の外形に沿った輪郭の明確な帯状の色面で構成した画面による作品で評価され、規則に基づくシリーズによる制作を行う。この作品は、その形状から分度器シリーズと名付けられた中近東の城壁都市の名前を冠した作品の一つ。

## 50 宇佐美 圭司 USAMI Keiji／1940ー2012☆



い さ く プレーキ だいこうずい

遺作・制動・大洪水

Posthumous Work: Brake, a Big Flood

2012(平成24)

油彩、キャンバス 291.0×291.0cm  
個人蔵

大阪府吹田市に生まれる。母は和歌山県出身。天王寺高校を卒業後、東京藝術大学入学を目指して上京するが独学。1963(昭和38)年、南画廊における個展で認められる。1965(昭和40)年、アメリカの雑誌『LIFE』に掲載されたワッツ地区での暴動を報じる写真の中の人体の形をモチーフとする作品制作を続けた。この作品は癌による死期の宣告を受けて最後に制作されたもの。

## 51 建畠 覚造 TATEHATA Kakuzo／1919-2006☆



でいすく

**DISK 4**

1977(昭和52)

アルミニウム、真鍮 56.0×156.0×88.0cm

建畠大夢の長男として東京に生まれ、抽象的な形による表現を追求した。この作品ではDISK(円盤)では機械のような形を彫刻として作品とすることを試みている。

## 52 グレコ, エミリオ GRECO, Emilio／1913-1995



びょうにん かいご

病人を看護する

Visitare gl'Infermi (Watching over the Sick)

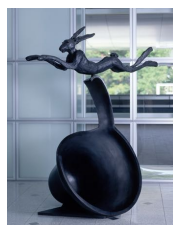
1963(昭和38)

ブロンズ 157.0×186.5×12.0cm

玉井一郎氏寄贈

イタリア、シチリア島のカタニーアに生まれる。石工の徒弟として働き、パレルモの美術学校で彫刻を学ぶ。第二次世界大戦後、彫刻家として活動をはじめ、イタリアを代表する作家の一人となる。この作品は1290年に創建され1591年に完成したオルヴィエート大聖堂の新しい扉のために制作されたもの。

## 53 フラナガン, バリー FLANAGAN, Barry／1941-2009



つりがね うえ と のうさぎ

ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎

Leaping Hare on Curly Bell

1989(平成元)

ブロンズ 230.0×187.0×128.5cm

イギリス、ウェールズのプレタティンに生まれる。バーミンガム工芸学校に続いて1966(昭和41)年までセント・マーチンズ美術学校でアンソニー・カロに学ぶ。様々な素材を用いた抽象的な作品を試みていたが、1970年代末から野兎を主題とする作品の制作をはじめ、1980年代以降の彫刻を代表する作家として活躍した。

## 54 保田 春彦 YASUDA Haruhiko／1930ー2018☆



きゅう おお ばくしゃ

球を覆う幕舎

Tabernaculum enclosing the Sphere

1994(平成6)

ステンレススチール

208.0×335.0×305.0cm

保田龍門の長男として現在の紀の川市粉河に生まれる。建築や都市の形を主題とする抽象的な作品を多く試みた。この作品では遊牧民のテント張りの住居に想を得ながら、全く異質な金属と抽象的な球による造形が行われている。